

平成27年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成27年2月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,389億円余
2. 前年同月比	0.7% (3か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.5%(91.4%) : 非店頭2.0%(8.6%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	854,956㎡ (前年同月比:-2.4%)
6. 総従業員数	18,808人 (前年同月比:-0.9%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	6-8月 -1.6%、7-9月 +0.0%、8-10月 0.5%、 9-11月 0.2%、10-12月 0.2%、11-1月 0.4%

【参考】平成26年1月の売上高増減率は5.4% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

- (1) 1月の入店客数は、正月休暇が1日少なかったことや後半の天候不順の影響もあったが、店舗ごとの強弱を織り込んでほぼ前年並みの実績を残した。
- (2) 初商は、福袋が好調で各社とも順調な滑り出しを見せた。クリアランスについては序盤が好調であった半面、中盤以降はやや勢いを欠いたが、一方で早期投入の春物衣料を中心としたプロパー商品に動きが出ていることなどから、月計では前年を確保することができた。
- (3) 商品別では、婦人服(-3.7%)が伸び悩んだものの、紳士服(+6.2%)の好調が寄与し衣料品は1.6%減にとどまった。また、インポートブランドを含む身のまわり品(+3.4%)や、高級時計などの動きが顕著な美術・宝飾・貴金属(+6.3%)、保湿やメイクアップ商品の国内需要が高まる化粧品(+15.0%)などが、外国人観光客の購買増などもあって好結果を示した。加えて、食料品が菓子(+1.4%)、惣菜(+1.6%)、その他食料品(+2.4%)の好調を背景に、2か月ぶりのプラス(+1.1%)となったのが注目される。
- (4) 東京地区の2月の商況(16日段階)は、新規ブランドの導入や展開日数の増が奏功してバレンタイン商戦が活況を呈していることや、昨年は中旬までに二度に亘り週末が大雪だったことの反動もあり、前年比プラス4%強で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.1日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 6店、②変化なし: 5店、③減少した: 8店
- (3) 1月歳時記(初売り、冬の全館セール)の売上(同上/有効回答数10店舗)
①増加した: 5店、②変化なし: 5店、③減少した: 0店

東京地区百貨店 売上高速報 2015年01月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	138,985,985	100.0	0.7
紳士服・洋品	14,689,232	10.6	6.2
婦人服・洋品	32,941,026	23.7	-3.7
子供服・洋品	2,625,974	1.9	-0.4
その他衣料品	2,860,482	2.1	-13.0
衣 料 品	53,116,714	38.2	-1.6
身のまわり品	20,386,196	14.7	3.4
化粧品	7,874,402	5.7	15.0
美術・宝飾・貴金属	8,349,176	6.0	6.3
その他雑貨	6,201,646	4.5	-1.4
雑 貨	22,425,224	16.1	6.8
家 具	1,581,287	1.1	-19.8
家 電	702,610	0.5	4.6
その他家庭用品	4,458,001	3.2	-8.7
家 庭 用 品	6,741,898	4.9	-10.5
生 鮮 食 品	4,440,425	3.2	-2.8
菓 子	7,808,697	5.6	1.4
惣 菜	6,638,136	4.8	1.6
その他食料品	9,023,153	6.5	2.4
食 料 品	27,910,411	20.1	1.1
食 堂 喫 茶	3,136,529	2.3	-1.4
サ ー ビ ス	2,228,104	1.6	2.6
そ の 他	3,040,909	2.2	4.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	1,898,654 千円	-10.1
従 業 員 数	18,808 人	-0.9
店 舗 面 積	854,956 m ²	-2.4

営 業 日 数	30.1 日	前年	30.1 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品が7か月連続、雑貨が4か月連続、食料品が2か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が3か月連続、衣料品が2か月ぶりのマイナスとなった。紳士服・洋品、化粧品が7か月連続、美術・宝飾・貴金属が3か月連続、家電、惣菜が2か月連続、菓子、その他食料品が2か月ぶりのプラスとなった。その他では、子供服・洋品、その他雑貨、家具、その他家庭用品、生鮮食品が先月より改善をみせた。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.7	—	3か月連続プラス
紳士服・洋品	6.2	0.6	7か月連続プラス
婦人服・洋品	-3.7	-0.9	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-0.4	0.0	2か月連続マイナス
その他衣料品	-13.0	-0.3	5か月連続マイナス
衣料品	-1.6	-0.6	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	3.4	0.5	7か月連続プラス
化粧品	15.0	0.7	7か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.3	0.4	3か月連続プラス*
その他雑貨	-1.4	-0.1	5か月連続マイナス*
雑貨	6.8	1.0	4か月連続プラス
家具	-19.8	-0.3	10か月連続マイナス
家電	4.6	0.0	2か月連続プラス
その他家庭用品	-8.7	-0.3	2か月連続マイナス
家庭用品	-10.5	-0.6	3か月連続マイナス
生鮮食品	-2.8	-0.1	10か月連続マイナス*
菓子	1.4	0.1	2か月ぶりプラス*
惣菜	1.6	0.1	2か月連続プラス*
その他食料品	2.4	0.2	2か月ぶりプラス*
食料品	1.1	0.2	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	-1.4	0.0	2か月連続マイナス
サービス	2.6	0.0	3か月連続プラス
その他	4.6	0.1	6か月ぶりプラス
商品券	-10.1	-0.2	3か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>